

長崎 びわ

【参考資料】

● 出荷時期



Episode 1 1粒の種から始まった！



日本における最古のびわの記録は奈良時代の正倉院文書です。しかし、当時のびわは実が小さく、現在の品種とは異なります。現在の主力品種「茂木」は江戸時代後期の1830年頃に長崎市茂木出身の三浦シラが出島で中国人通訳から中国びわを譲り受け、生家に播いたことに始まり現在につながっています。千葉県的主力品種である「田中」は植物学者の田中先生が明治12年頃に長崎で食べたびわの種を東京に持ち帰り自宅に播いたのが始まりとされています。長崎から始まったびわの歴史は現在の全国一の生産につながっています。

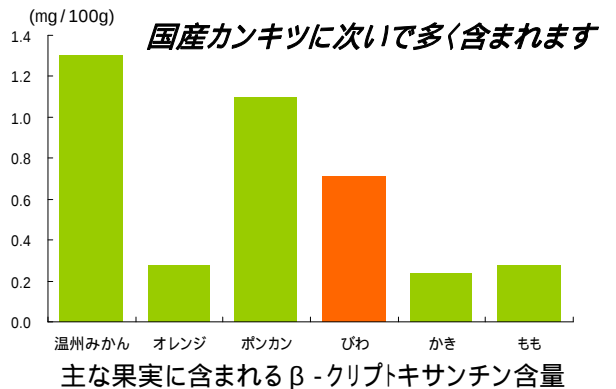


生家跡の碑
1粒の種が始まり



Episode 2 長崎びわの機能性！

びわにも温州ミカンと同様に機能性を有するカロテノイドの一種のβ-クリプトキサンチンが含まれています。β-クリプトキサンチンとは、「カロテノイド」と呼ばれる成分の一種で、肝機能障害や動脈硬化、骨密度低下のリスクが軽減されることが明らかにされています。含有量はみかんの半分程度ですが、他の果実より含有量が多く、効果的にβ-クリプトキサンチンを摂取できます。

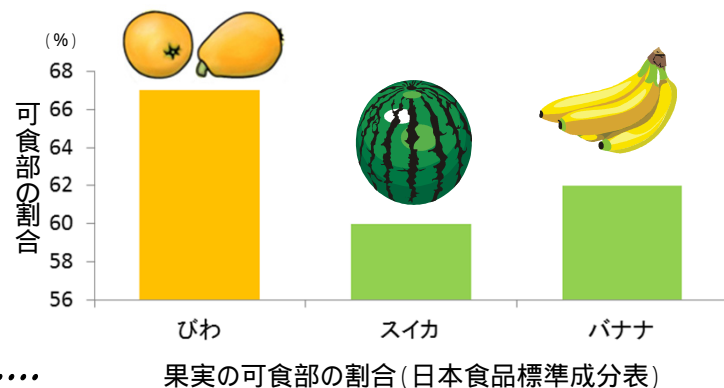


Episode 3 種はそれほど大きくない！

一般に、びわは種が大きく食べるところが少ないと思われるのではないでしょうか？実際のびわの可食部はバナナやスイカより多くお得な果実です。意外だと思った方は、ぜひ買って確かめていただければ幸いです。



何となく種が大きく見えますが……

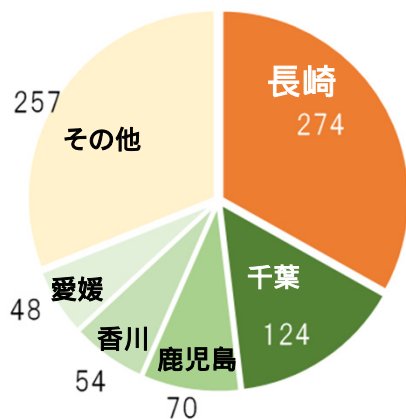


びわは栽培面積、収穫量ともに長崎が日本一！

(R6農林水産統計)

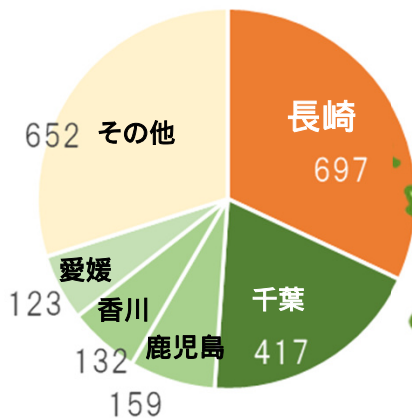
栽培面積 (ha)

全国栽培面積: 827ha



収穫量 (t)

全国収穫量: 2,180t



露地栽培は、長崎市や西海市が盛んです。
ハウス栽培は、島原半島や五島など県内各地に広がっています。

長崎市のびわ産地の風景



長崎県の一押し品種「なつたより」

長崎県農林業技術開発センター育成



大きい！甘い！柔らかい！

- 果実重は60～70gで**大玉**
- 糖度が高い**（12度以上）
- 果肉が**柔らかく、ジューシー**

なつたより

茂木



長崎の主要品種「茂木」と比べ大玉です！

